

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス			
教科目名	地理	担当教員	福井駿
学年学科	1 年全学科	通年	必修 2 単位
学習・教育目標			
授業の目標と期待される効果： 本授業では、地理的に思考する(Thinking Geographically)ことを目指す。地理的に思考するとは、空間という側面に着目することで、個々の出来事を、特定の規模(地域規模や世界規模)のシステムとして理解することである。それによって、これまで意味の無い出来事だと思われていたことについて意味を見つけ、それらの出来事の是非を吟味することを可能にし、社会の中で主体的に行為する能力を向上させることが期待される。本授業の具体的な目標は以下のようなものである。 ①世界を上手く説明できる知識を習得し、発展させること ②探究に際して、多様な事象を関係付ける推論を実行すること ③現代社会の問題を発見し、解決策を提案すること		成績評価の方法： ・以下の成績評価の対象点を設ける。 前期中間試験 100 点(A)、前期期末試験 100 点(B)、前期学習態度 50 点(C)、後期中間試験 100 点(D)、後期期末試験 100 点(E)、後期学習態度 50 点(F)、課題 25 点(G) ・上の対象点について、 $A+B+C+D+E+F+G/A+B+C+D+E+F$ で計算する得点率で最終評価を行う。 達成度評価の基準： 以下の各要素についての達成度を評価する。(それぞれの要素に対する具体的な規準は最下段の評価規準に示す通りである)。 ①用語の意味を理解しているか ②地理的探究の手続きを実行できるか ③地域の特色を一般的な理論から解釈できるか ④地域を比較するための視点を立てられるか ⑤グローバルな問題構造を発見できるか ⑥問題について解決策を提案できるか	
授業の進め方とアドバイス： 授業は、教員による講義やグループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーションなど様々な形式で進めていくことになるので、授業が円滑に進められるように教員の指示には真摯に対応するように求める。また、それぞれが学習をふりかえるため、かつ教員がそれぞれの学習状況を把握するため、各自ノートを用意し学習の記録をとることを求める。			
教科書および参考書： 教科書および参考書としては、『新詳地理 B』(帝国書院)、『新詳地理 B ノート』(帝国書院)、高等地図帳(二宮書店)を指定する。その他、必要に応じて学習材(プリント等)を配布する。			
授業の概要と予定：前期			AL のレベル
第 1 回：前期イントロダクション			
第 2 回：アジアの地理的探究(1)(朝鮮半島, 中国, 東南アジア, 西アジア, 南アジアなどを事例に)			C
第 3 回：アジアの地理的探究(2)			C
第 4 回：アジアの地理的探究(3)			C
第 5 回：アジアの地理的探究(4)			C
第 6 回：アジアの地理的探究(5)			C
第 7 回：地理的に考えるとは―「事例」とは			B
第 8 回：中間試験			
第 9 回：日本と世界の地理的探究(1)(自然環境, 産業構造, 生活文化などを視点に)			C
第 10 回：日本と世界の地理的探究(2)			C
第 11 回：日本と世界の地理的探究(3)			C
第 12 回：日本と世界の地理的探究(4)			C
第 13 回：日本と世界の地理的探究(5)			C
第 14 回：日本と世界の地理的探究(6)			C
第 15 回：地理的に考えるとは―「視点」とは			B
期末試験			
第 16 回：フォローアップ (期末試験の解答の解説など)			
授業の概要と予定：後期			AL のレベル
第 17 回：後期イントロダクション			

第18回：グローバル問題の地理的探究(1) (飢餓，環境汚染などを問題に)	C
第19回：グローバル問題の地理的探究(2)	C
第20回：グローバル問題の地理的探究(3)	C
第21回：グローバル問題の地理的探究(4)	C
第22回：グローバル問題の地理的探究(5)	C
第23回：グローバル問題の地理的探究(6)	C
第24回：中間試験	
第25回：グローバル問題の地理的探究(6)	C
第26回：グローバル問題の地理的探究(7)	C
第27回：グローバル問題の地理的探究(8)	C
第28回：地理的に考えると「問題」とは	B
第29回：グローバル問題への解決策提案(1)	A
第30回：グローバル問題への解決策提案(2)	A
第31回：グローバル問題への解決策提案(3)	A
期末試験	
第32回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など）	

評価規準(ルーブリック)

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	授業で扱った地名等の用語のほとんどについて、その意味を説明することができる。	授業で扱った地名等の用語の重要なものについて、その意味を説明することができる。	授業で扱った地名等の用語の重要なものについても、その意味を説明することができない。
②	授業で扱った、資料読み取り等の地理的探究の手続きを正確に行なうことができる。	授業で扱った、資料読み取り等の地理的探究の手続きを行なうことができる。	授業で扱った、資料読み取り等の地理的探究の手続きを行なうことができない。
③	授業で扱っていない地域について、何らかの一般的理論を用いてその特色を説明することができる。	授業で扱った地域について、一般的理論を用いてその特色を説明することができる。	授業で扱った地域について、一般的理論を用いてその特色を説明することができない。
④	授業で扱っていない視点をを用いて、地域の違いを説明することができる。	授業で扱った視点をを用いて、地域の違いを説明することができる。	授業で扱った視点をを用いて、地域の違いを説明することができない。
⑤	授業で扱っていないグローバルな問題について、それがなぜわれわれにとっても問題であるかを説明できる。	授業で扱ったグローバルな問題について、それがなぜわれわれにとっても問題であるかを説明できる。	授業で扱ったグローバルな問題について、それがなぜわれわれにとっても問題であるかを説明できない。
⑥	グローバルな問題について、根拠を挙げる等の説得力をもって、解決策を提案することができる。	グローバルな問題について、解決策を提案することができる。	グローバルな問題について、解決策を提案することができない。